

農業で、人がつながる。 町にいい顔がふえていく。



協同組合 夢高原市場（広島県世羅町）

農家がチカラをあわせて、町のファンをふやしたい。

地域農業の新しいモデルへ。

広島県世羅町。昔から穀倉地帯として栄えたこの町は、農家の高齢化による地域の衰えという、まさにこの国が抱える問題に直面していました。しかしそんな状況乗り越えようと、日本中の地域農業のモデルとなるような取り組みが始まっています。

農家のチカラを、ひとつに。

「世羅高原6次産業ネットワーク」。それは1999年、世羅町に設立された農家の人々の集まりです。農作物をつくるだけでなく、加工や販売まで手がけることで、農家の所得を向上させる農業の6次産業化。今では全国から視察が相次ぐこの町の活動も、設立当初は決して平たんな道のりではなかったと、事務局長の宮川哲二さんは語ります。農業を通して豊かな地域をつかっていくには、まず、農家が自分たちの利害関係を越えて団結する必要があるのです。そこで、行政とJAと普及センターが協議会を設立

したことをきっかけに、農家の人々が集まり一体となって結成したのが、世羅高原6次産業ネットワークでした。

農業から町のブランドをつくりたい。



名所や史跡に乏しく、何もしなければなかなか人を集めることが難しかった世羅町。「この町ならではの何かをつくっていかねば」と悩んだ末にまず始めたのが、世羅町を「フルーツとフラワーの町」としてブランド化しようという取り組みでした。さらに、世羅町の名前が全国的に知ら

れるきっかけとなったのが「グリーンツーリズム」。農家に泊まってもらい、農業体験をとおして農業ファンをふやしていく。これらの取り組みをきっかけに、今では世羅町へ移住し、農業を始めた人もいます。他にも、駅伝で有名な世羅高校陸上部と共同開発した「ランニングウォーター」など。世羅町のブランド化を目指す活動は大きな広がりを見せはじめています。

みらいを生み出す挑戦は終わらない。

設立当初の参加32団体から、今では72団体にまで拡大した世羅高原6次産業ネットワーク。農林水産業みらい基金の助成をきっかけに、さらなる取り組みへの挑戦もスタートしています。町全体でグリーンツーリズムを盛り上げていきたいと、農家民宿の数を20軒にふやす目標を立て、民宿に使う古民家の改修や、これから民宿を営む農家への研修制度を始める予定です。さらに、今回の助成で新たに建設される食品加工工場を農家に開放。

会員自らのアイデアをもとに新たな特産品をつくりだす機会も提供しようとしています。また「ネットワークが長い間続いているのは、女性が率先して活動に参加していることが大きい」と語る宮川さん。これからも、農業に携わる女性のチカラに大きな期待を寄せているそうです。着実な成長を目指す農業ネットワークを、地域と女性のチカラでこれからさらに進化させていきたい。そんな情熱を胸に、日本の地域農業のみらいを生み出す挑戦は、これからも続いていきます。



協同組合 夢高原市場 + 農林水産業みらい基金

地域の農家や行政がひとつになり、農業から町のファンをふやしていく。この活動には、日本の地域農業のみらいがある。そんな期待と応援の気持ちをこめて助成を決定しました。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・J Forest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

一般社団法人
農林水産業みらい基金

詳しくは 農林水産業みらい基金 総務 www.miraikikin.org/